

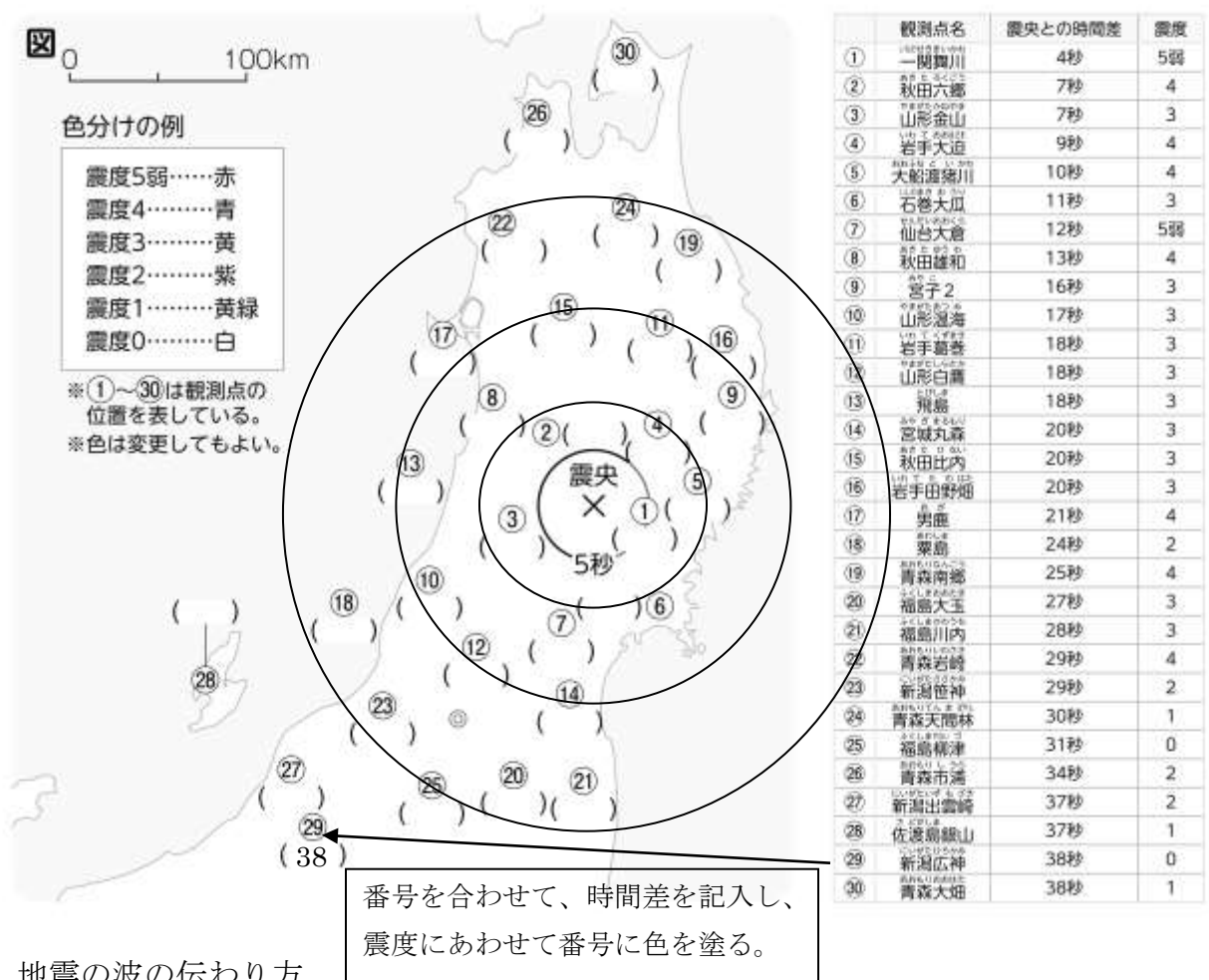
実習 1

ステップ 1 (ゆれはじめの時間)

- ① ゆれ始めの震央との時間差を () に記入
- ② 時間差が 10 秒、20 秒、30 秒の地点をなめらかな線でむすぶ。(5 秒を参考)

ステップ 2 (震度のひろがり)

- ③ 震度にしたがって色分けする。



地震の波の伝わり方

地震の波の到達時刻が同じ(地震の揺れ初めが同じ)時刻の地点をむすぶと、

震央を中心にした同心円状になる

(等発振時曲線)

地震のゆれは

震央 を中心に 波のように円状にひろがっていく

※同じ地震でも 震度の分布も同心円状になることが多い

震源から 遠い ほど 震度は小さくなる

地盤の状態によって

同じ距離でも震度が異なることがある



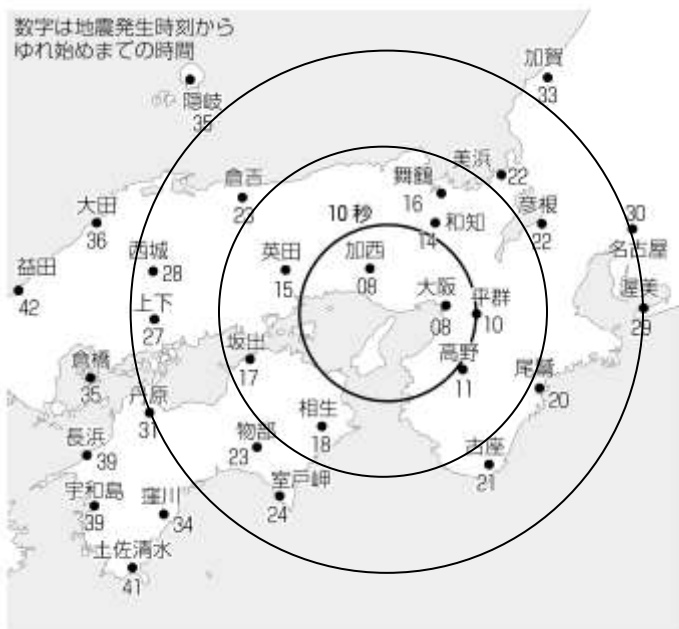
※同じマグニチュード（規模）の地震でも

震源が 浅い 方が中央付近の 震度が大きくなる

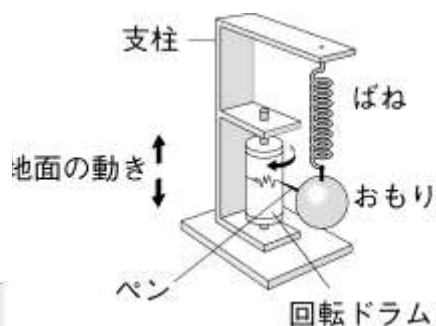
※震源の深さが同じなら

マグニチュードが 大きい 方が中央付近の 震度が大きくなる。

阪神淡路大震災のゆれの伝わりかた



地震計のしくみ



質量の大きな物体は動きにくい性質があり、ばねが動きを吸収する。